

無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 (①無02-07-2/5)

目 的

風俗・慣習、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等についての全国的調査を行い、その成果をデータベースとして構築する。さらに研究協議会の開催を通じて各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図り、具体的保護施策の実施に資する指針を作成し公表する。

成 果

1 無形民俗文化財の伝承・公開の実態調査

本年度は、無形民俗文化財としての民俗芸能の伝承実態の調査として、千葉県南房総市で4年ごとに行われる国指定重要無形民俗文化財「白間津のオオマチ行事」について、とくに子どもたちの踊りであるささら踊りの伝承過程を調査した。地域の少子化とともに踊り手が減少している状況が分かり、現地の保存会と協力して踊りの練習用DVDを作成した。その他、同じ南房総市の川口のみこの踊りも調査を行った。また、中国地方の神楽の公開のあり方についての調査として、広島県安芸高田市の神楽門前湯治村にある「神楽ドーム」での定期公演等を調査した。

公開の実態調査としては、北海道・東北、近畿・東海・北陸、中国・四国、の各ブロック別民俗芸能大会、「伝統文化こども教室」フェスティバルINなら、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター公開講座等の公開確認調査を実施した。

都市における民俗技術の定着と展開について、庄内地方の三月節供で雛人形に供えられる「飾り物」の実態調査を行った。調査の結果、鶴岡市や酒田市では、上級武士や都市町人が近世前期には上方や江戸から贅を尽くした雛人形を買い求め、この人形に高い装飾性をもった雛菓子や、雛菓子を模した押絵が供えられ、その伝統は現在も引き継がれていることが明らかになった。こうした雛菓子は、主に上級武士や豪商の求めに応じた菓子職人とその系譜を引く現在の職人によって製作され、押絵や傘福、御殿毬などとともに、生活と関わりながら飾り物が根付いた実態が明らかになってきた。

2 無形民俗文化財研究協議会

日 時：2007年（平成19年）12月7日（金）10：00～17：30

会 場：東京文化財研究所セミナー室

参 加 者：112名

テ ー マ：市町村合併と無形民俗文化財の保護

趣 旨：無形文化遺産部では、旧芸能部の時代から、保存関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して民俗芸能の保護と継承について研究協議する会を開催してきたが、昨年度より対象を無形の民俗文化財一般に広げ、新たに「無形民俗文化財研究協議会」として開催している。第2回に当たる本年度は、とくに無形の民俗文化財の保護施策に与える影響が大きいと思われる問題として、「市町村合併と無形民俗文化財の保護」をテーマとして取り上げ、12月7日に開催した。近年市町村合併を経験した、あるいはこれまでに市町村合併を契機にユニークな保護の取り組みを進めてきた4つの自治体の文化財保護担当者、および過去の市町村合併を乗り越えてきた無形民俗文化財の保護団体の代表者1名からの報告が行われ、この報告をもとに、コメンテーターやフロア参加者も含めた全体的な協議を行い、多くの文化財行政担当者や研究者、伝承者の方々の意見を求めた。協議の成果は報告書として刊行した。

①プロジェクト研究 Areal,4

プログラム：

- 10：30～10：40 挨拶 宮田繁幸（東京文化財研究所無形文化遺産部長）
- 10：40～10：50 趣旨説明 俵木悟（東京文化財研究所無形文化遺産部）
- 10：50～11：20 市町村合併による民俗芸能の保護と継承—相模原市内の一人立ち三匹獅子舞を中心に—
木村弘樹（相模原市教育委員会文化財保護課）
- 11：20～11：50 市町村合併と保存会活動—盛岡市の事例を中心に—
千田和文（盛岡市教育委員会歴史文化課副主幹）
- 11：50～13：30 （昼食）
- 13：30～14：00 町村合併と無形民俗文化財の保存と活用—とくに学校教育において—
寺田昭士（揖斐川町教育委員会教育委員長職務代理者）
- 14：00～14：30 市町村合併と民俗芸能の伝承—「合併から政令市へ」浜松市を例に—
戸田剛（浜松市生活文化部文化財担当課主任）
- 14：30～15：00 市町村合併が綾子舞の保存振興に与えた影響
須田弘宗（柏崎市綾子舞保存振興会会長）
- 15：00～15：20 （休憩）
- 15：20～17：20 総合討議
- コメンテーター 齊藤裕嗣（文化庁伝統文化課主任文化財調査官）
掛谷昇治（日本青年館公益事業部次長）
服部比呂美（東京文化財研究所無形文化遺産部客員研究員）
- コーディネーター・総合司会 俵木悟（東京文化財研究所無形文化遺産部）

また、平成15年度より継続開催している「無形の民俗文化財映像記録作成」小協議会について、平成19年度は5回の協議を行った。その成果は、一部を論文として発表した他、これまでの検討の結果をまとめて『無形の民俗文化財映像記録作成の手引き』として刊行し、全国の教育委員会に配布した。

- 第13回：2007年5月18日（金）
第14回：2007年7月20日（金）
第15回：2007年9月28日（金）
第16回：2007年11月16日（金）
第17回：2008年2月1日（金）

発表件数 1件

- ・宮田繁幸「日本における無形民俗文化財の保護—その現状と課題—」文化資源シンポジウム「地方文化からの観点」国立台北芸術大学文化資源学院 07.12.08

論文等掲載数 1件

- ・俵木悟「無形の民俗文化財の映像記録作成への提言」『民俗文化財—保護行政の現場から—』岩田書院 pp.144-161 07.10

報告書刊行 2件

- ・『第2回無形民俗文化財研究協議会報告書—市町村合併と無形民俗文化財の保護』東京文化財研究所 08.3
- ・『無形の民俗文化財映像記録作成の手引き』東京文化財研究所無形文化遺産部 08.3

研究組織

○宮田繁幸、俵木悟（以上、無形文化遺産部）、大島暁雄、服部比呂美（以上、客員研究員）